

# グローバル経済の早期回復はあるか

BNPパリバ証券チーフエコノミスト  
河野の  
龍太郎

- \*米国の三度の利下げが奏功
- \*企業は生産拠点の中国からの移転で対応
- \*低成長時代に突入した中国
- \*明らかに変わった米国の金融政策ルール
- \*将来の調整コストが大きくなる懸念
- \*総需要のかさ上げで完全雇用を維持
- \*日銀が金融緩和に消極的な理由
- \*景気回復の長期化だけに集中する現政権
- \*消費増税の方法に対する提案
- \*増大する企業の内部留保をどう考えるか



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）  
いろいろ経済の状況も不安定要素が出てきて  
おりますし、世界の金利の動向も大きく変わ  
りつつありますが、もう年末でございますので、  
来年に向けてこのグローバル経済がどこへ行く  
のか、今日はいつものように明快なお話を河野  
先生にさせていただきたいと思います。  
それでは、詳しいご紹介はいたしません  
が、よろしく願いたします。（拍手）

## 米国の三度の利下げが奏功

**河野** 皆さん、こんにちは、BNPパリバの  
河野です。本日はよろしく願いたします。  
「グローバル経済の早期回復はあるか」とい  
うことで、今から70分ほどお話をいたします。

私が景気の話をする、これはどこに行っても  
そうなのですが、ちょっとまた弱気な話を聞か  
されるのかなと思われる方が多いのですが、実  
は今年はどうでもありません。皆さん覚えてい  
らっしゃると思いますが、5月の長い休みが終  
わった後ぐらいに、トランプさんが対中制裁第  
3弾を出したり、あるいは8月に対中制裁第4  
弾を表明してグローバル経済はこのまま大きく  
下降するんじゃないかといって、金融市場も一  
時大騒ぎをしました。私、別にあまのじゃくとい  
うことではないんですが、多くの方が言っ  
ていらっしゃるよりも、そんな悪いわけじゃない  
よということをこの7月ぐらからお話を差し  
上げております。そして、今日のこの講演のタ  
イトルに対する回答についても、2020年は